

III

福島県内で活用されている道徳教材、および実際の授業内容をまとめました。

放射線と私、放射線と社会

福島ふくしまの復興ふっこうにどう貢献こうけんするのか

被災ひさいし、避難ひなんしている状況じょうきょうに対して、どのように向き合むきあっていけばよいのか。福島ふくしまに暮くらす自分のアイデンティティアイデンティティを構築こうちくすること、また、福島ふくしまの復興ふっこうのために、自分自分はどのように貢献こうけんできるのかを、考えるきっかけあけを与える授業あが行われている。



郡山市で行われた授業では、福島第一原子力発電所で作業員として働いていた地元げんばの方から、現場の様子や作業員たちの思いが語られた(写真提供: 佐々木清氏)

「放射能ほうしやのうがうつる」は差別さべつである

未知みちのものに対して、忌み嫌い きらい避けるべきものとしてレッテルを貼はり、排除はいじよしようとする心理こころによって差別さべつが生まれる。見えない匂においもしない放射線ほうしやせんに対しても、恐怖こわと不安ふあんを多くの人々ひとびとが抱いだき、福島ふくしまの人々への偏見へんけんと差別さべつが生まれた。

福島ふくしまからの転校生てんこうせいが「放射能ほうしやのうがうつる」といわれた、病院びんざつで診察しんさつを断ことわられた、レストランで入店きよびを拒否きよひされた、などの事例じゆどうが報道ほうどうされたが、それらの事象じゆどうは、偏見へんけんと差別さべつによる人権問題じんけんである。

絆きずなに支えられる個人こじんと社会

地震じしんと原子力災害げんきりくさいは、コミュニティにおける人と人とのつながりの大切たいせつさ、緊急時きんぎゅうじでも壊れない絆きずなを日ごろからつくっておくことじゆようせいの重要性じゆうじゆうせいを、改めて認識にんしきする機会きかいとなった。

そのための道徳教育だうとくくういくとして、「自分は家族や友人、その他数多くの人々の支えによって生きていること」や、「個人と社会を成り立たせているものは、他人を思いやり、互いに励まし合う、人と人との絆である」ことが教えられている。

未来館からのポイント!

忘れないために必要なこと

原子力災害げんきりくさいで被災ひさいした人々にとって、今のコミュニティの姿すがたには、放射線のストーリーが織り込まれていると言えるかもしれません。

一方、東京を含む、放射能汚染が比較的深刻でなかった福島県外の地域ちいきでは、人々は、放射線ほうしやせんを再び意識いしきの外へと追いやり、安心しようとしています。福島ふくしまを忘れず、3.11の背後はいごに存在そんざいする問題の本質ほんしつを見つめ続けるために、私たちはどのような活動を行っていく必要があるでしょうか?

2016年10月7日の空間線量値

福島県ではテレビの天気予報てんきよほうにおいて、放射線情報ほうしやせんじゆうほうも毎日提供されている(画像提供: 福島中央テレビ)



公園に設置されている放射線空間線量モニタリングポスト(郡山市 2016年1月)

本展示の分析のために参照した主な教材

- 「小学生、中学生、高校生のための放射線副読本解説編(教師用)」文部科学省(2011)
- 「小学生、中学生、高校生のための放射線副読本」文部科学省(2011)
- 「放射線に関する指導資料 第3,4,5版」福島県教育委員会(2014, 2015, 2016)
- 「ふくしま道徳教育資料集 第I, II, III集」福島県教育委員会(2013, 2014, 2015)
- 「データでなっとく放射線まんが「なすびのギモン」～身の回りの放射性物質編, ~食品編, ~健康影響編」環境省、除染情報プラザ(2015)
- 「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(平成27年度版) -第6章 健康管理 Q&A」環境省(2015)
- 「『放射線教育5年目』の歩み一人ひとりのつながりを大切に放射線教育および9年間を見通した小・中学校連携放射線教育の展開」佐々木清(2016)
- 福島県環境創造センター交流館「コミュニケーション福島」の展示
- 「Science Window『放射線ってなあに?』」科学技術振興機構(2013)
- 「みらいへのとびら～知って、考えて、話してみよう自分のこと、みんなのこと、放射能のこと」セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(2016)
- 「本当のところを教えて!放射線のリスク放射線影響研究者からのメッセージ」日本放射線影響学会 Q&A対応グループ編(2014)